

長野県退職教職員の会上小支部は退職した教職員相互の交流・親睦をはかるほかに地域で起きている様々な教育問題について教職員、保護者、地域社会とともに解決するために協力して取り組んできました。2023年6月11日に「地域と大学を考える会」主催の市民集会が行われましたが、そこで報告された長野大学で起きている事態について、わたしたちは大変強い衝撃を受けました。長野大学は地域の伝統ある大学で高等教育を担う重要な場所として期待してきました。また、教職員の皆さんとはともに教育に携わる仲間として活動することもありこのような事態にいたった事に心を痛めているところです。これからも大学で働く教職員はもちろん、何よりもそこで学ぶ学生たちの思いが大切にされる大学であってほしいと願います。そのため、以下のことを要望させていただきます。

1. 集会で指摘のあった「不明朗なお金の動き」について、本当は何があったのか、今後に向けて何を教訓とするのか、公立大学として責任をもって市民に説明してください。
2. 上記1の調査や対応を大学に働きかけた田中法博教授ら教員が処分されたことについて、その不当性や根拠の不明瞭性が指摘されています。なぜどのような理由で処分がなされたのか、本当にそれは適切な判断に基づいて行われたのか、市民に説明してください。
3. 大学の運営についてトップダウンの改革が強調され、教職員や地域住民との対話や意見交換がおろそかにされているとの指摘があります。地域に開かれた公立大学として、今後どのように大学を運営していく方針なのか、市民に説明してください。

回答は、7月〇日までに行われるよう要請します。
表記住所まで送っていただけると幸いです。